

松ぼっくり

vol.18
2016 Spring



やわらかな風の中



医療法人 為進会

寿泉堂松南病院

松ぼっくり vol.18

CONTENTS

はじめが肝心

寿泉堂松南病院 診療部長
阿部 正幸 1

松南だより

- デイケア「音楽鑑賞会」 2
- オープン研修 2
- 感染対策委員会全体研修会 3
- 精神科家族懇談会 3

病棟だより

- 第2病棟・紅葉狩りドライブ 4
- 第5病棟・家族懇談会 4
- 第1病棟・初詣外出 4
- 新春ゲーム大会 5
- グループホーム・クリスマス会 5

栄養管理室だより

- 日本の食文化、行事食について 6
- 「端午の節句」

薬局だより

- 精神科病院で使われる薬⑪ 7
- ～新しい睡眠薬～

新入職員紹介 7

平成27年度表彰 7

寿泉堂松南病院の四季「冬」

- 院内行事 クリスマス会 8

- デイケア行事
障害者総合支援法についての講座 8

外来診療のご案内 9

- ミニコラム 9

- 編集後記 9



表紙 1

●はじめが肝心・

病 気や怪我で急に健康が失われた状態を医療用語では「急性期」といいます。急性期の医療では「診断をつける」「病気の進行を止める」「病気の回復を見込める状態にする」事が主な目標になります。どの病気でも、早期発見、早期治療、とにかく「はじめが肝心」と言われています。今回は、この「急性期医療」についての話をしたいと思います。

福 島県でドクターへりを導入した当初から、私はライトドクターとしてチームに加わっています。ドクターへりに関しては様々な効果が期待されていますが、一番は治療開始時間の短縮です。交通事故や労災事故等の外傷、脳梗塞、心筋梗塞など様々な救急疾患では、治療開始までの時間が短ければ短いほど治療成績がよい事が知られています。しかし、病気や事故は、都合よく受け入れ可能な病院の近くばかりで起こるはずはありません。いわゆる医療過疎の問題もあります。ドクターへりはこの「隙間」を埋める役割を果たし、現場まで素早く医療スタッフを運び、迅速に処置を開始し、搬送の間も途切れる事なく治療を継続し、今までなら病院までたどり着く事さえできなかった重症の患者を救命する事もできるんです。治療開始を早めることだけでも運命が変えられる! かなりお得だと思いませんか?

話 は変わりますが、慢性疾患として精神疾患とよく比較対照される病気に糖尿病があります。発症率や、治療経過などが似ている所があるんです。この糖尿病の治療に関して「レガシー効果」というものが知られています。大規模な長期研究の結果、早期にきちんとした厳しい治療をした人たちは、最初の数年間こそ差は出ませんが、数十年後の合併症、死亡率は明らかに少ない事がわかりました。この事により、糖尿病の早期発見・早期治療の有用性が一層注目されるようになりました。最初は大きな

●

デイケア作品【ペーパークラフト『森のなかまたち』】
作製者、M.Sさんのひと言
シマリス、サル、フクロウを木の上に乗せる時に「重みで全体が倒れるかも…」と心配しましたが、倒れずに済みました(笑)。

差は目立たないけれど、真面目に治療をすると、まるで貯金をしたように将来の安定につながるんです。

そして、精神疾患も「はじめが肝心」である事は言うまでもありません。精神病発症から受診に至るまでの時間を精神病未治療期間(Duration of Untreated Psychosis: DUP)と言いますが、このDUPが長いほど治りにくくなり、再発しやすくなるという結果が様々な精神疾患で明らかになっています。また、発病後の最初の数年間は臨界期(Critical Period)と呼ばれ、この期間の安定がその後の病状を左右する重要な時期と言われています。つまり、早期発見し、中断する事なく治療を継続し安定した状態を保つ事がとても大切なんですね。最近は、こういった事を背景に急性期治療後のアフターケアも注目されていて、安定した状態の持続と、治療中断による不幸な再発を防いだり、再発の徵候にいち早く気がつくように訪問看護を核にした包括的な支援サービスの充実と、正確な情報を当事者や家族に提供し、勉強の機会を持つていただく事がより一層重要視されています。

精神科医療についてですが、現在、変革期にあります。地域差も大きいのですが、入院医療中心から地域生活中心への移行を目指す方針のもと、患者さんの入院期間短縮や積極的な退院支援だけではなく、新たな長期入院を生み出さないようにする取り組みがだいぶ前から始まっています。急性期医療の充実と退院促進は、入り口と出口という意味でコインの裏と表のような関係です。そして、「入院医療」では病院内や病院間での役割分担や、医師、看護師、精神保健福祉士等の多職種でのチーム医療、「通院医療」ではこれらに加えて、デイケア等のリハビリテーションや柔軟に対応できる訪問看護の充実も求められています。そういう限られた

寿泉堂松南病院
診療部長
阿部 正幸



医療資源を当事者や家族、地域の関係者、他の関係機関の持つ様々な医療以外の資源と連携させる工夫が、問題の解決を「入院」という形に頼らない、地域で生活することを前提とした支援を可能にするんです。

最後に当院での取り組みです。当院でもまず入り口の部分である急性期病棟の設置に向けて準備を開始しました。急性期病棟は、医療資源やマンパワーを集中して短期間で治療し、早期の社会復帰・退院を目指す病棟です。この準備のためには、院内の治療構造やスタッフの意識、病院と地域のかかわり方を変えていく事などの様々な工夫が必要です。こういった意識改革や工夫は、関係する全ての人に必要で、例えば、退院したと思ったらすぐに入院を繰り返すような、いわゆる“回転ドア現象”を減らしていく工夫は、治療スタッフ側の努力だけでは決して上手くいかず、患者さん側、あるいは地域の関係者の知恵を借りなければ成功しないでしょう。問題解決やその後の安定に、様々な協力関係がより重要になるんですね。また、医療面だけでなく、生活面も含め、それぞれの自尊心を大切にする関わりを目指していくためには、最初の医療との出会い、初診・初療が一層重要で、きちんと時間と手間をかけたいところです。いずれにしても、やはり「はじめが肝心」であることは言うまでもありませんね。

「A good beginning makes a good ending!」

松南だより

デイケア「音楽鑑賞会」

昨年12月22日(火)、デイケアにおいて清陵情報高校吹奏楽部・合唱部によるアンサンブルコンサートが開かれました。

吹奏楽部・合唱部合わせて33名の生徒の皆さんが出発し、アニメや映画のテーマソング、「いつでも夢を」「上を向いて歩こう」などの懐メロ、さらにクリスマスソングも含め、全部で18曲が披露されました。曲ごとに演奏者や楽器が入れ替わって趣向を凝らした演出となっていて、大変充実した時間を過ごすことができました。

コンサート終了後、デイケアメンバーの皆さんから「生演奏を聞くことができて良かった!」「高校生の皆さんのはつらつさに元気をもらえた!」「一生懸命に頑張っているのが伝わってきた、感動した!!」との感想があり、演奏を楽しみつつ、その姿を感慨深く見入っていた様子でした。

(デイケア 石塚 誠)



オープン研修

昨年11月、精神科疾患を理解するという目的でパーソナリティ障害について、診療部長の河野医師を講師にオープン研修がありました。年に2回の医師による精神科疾患についての講義などもあり、看護師の参加が多く見られました。

パーソナリティ障害は、看護する上で対応が難く、今回の講義は興味深い分野であるため、参加者は熱心に講義を受けていました。講義では分類や対処法を分かりやすく説明していただき、参考になったという意見が参加者のアンケートから多く聞かれました。具体例などをまじえた講義だったため、よりイメージがつきやすかったと思います。

私たち看護師は、疾患を理解し患者さんとの信頼関係を築きつつ、時には冷静かつ毅然とした態度で対応していくかなければならないと、改めて感じました。日々看護をしていく中で、悩み・戸惑う事もありますが、患者さんが早期に回復され退院できるよう援助していきたいと思います。

(教育委員会 橋本 弘子)



松南だより

■ 感染対策委員会全体研修会 ■

昨年11月に今年度2回目となる感染対策委員会の全体研修会が行われました。今回のテーマは「手指衛生の適切な手順と方法」で、流水と石鹼での手洗い方法と擦式消毒用アルコール製剤(ラビング法)について学びました。

手指衛生は最も重要な標準予防策です。手指衛生の方法やタイミングが適切でなければ、自身が感染源になってしまうと言われています。「感染を防止するのは自分の手」という言葉があり、一人一人が意識し常に実践することが大切です。

今回の研修で日頃行っている手洗いと比較する良い機会になったのではないでしょうか。これから感染症の増加するシーズンを迎えます。適切な手順と方法を実践し、感染予防に努めていきたいと思います。

(リンクナース 佐藤 晶子)



■ 精神科家族懇談会 ■

昨年11月に精神科家族懇談会が行われ、今回は30家族34名の方が参加されました。

まず始めに、今泉院長が当院の現状を説明され、その中で今後第1病棟を急性期病棟に移行する方針で進めているという話がありました。

当院の家族会である「松の実会」の山田会長からは、精神疾患を持つ患者の家族として、家族会を通じ家族間で問題を共有し、解決出来る場の必要性について説明していただきました。

河野医師による講演は、統合失調症の薬物療法についての内容でした。様々な要因で服薬の継続が困難な場合など、怠薬による病気の再発防止を図ることが重要であるため、2週間に一度、または月に一度の持続性注射製剤の選択などが挙げられました。

講演後ご家族から薬剤についてより細かな質問やうつ病に対する薬についての質問があり、河野医師から感情障害も患者さん個々人に合った薬が必要であると丁寧な説明がありました。

講演終了後、主治医より患者さんの現状や今後の方向性についての個別面談がありました。

今回は外来前廊下でデイケアや精神科作業療法で患者さんが製作した手工芸品が販売され、家族懇談会に参加されたご家族が感心しながら購入される姿も見られました。

(第1病棟科長 梅田 博美)



病棟だより

第2病棟・紅葉狩りドライブ

毎年恒例となった紅葉狩りは今回、大安場古墳公園まで行つきました。病棟の行事でこの公園に行くのは初めてで、参加者も興味津々でした。

当日は天気に恵まれ、車窓から見られる色づいた木々が太陽の光で輝いて見えました。

大安場古墳公園に着くと、最初に資料館のスタッフから古墳の歴史についてなどの説明があり、参加者はパンフレットを片手に真剣に話を聞いていました。また資料館には実際に土器に触れられるコーナーがあり、参加者同士が楽しそうに話しながら見学している場面もありました。

集合写真を撮り、帰り道ではコンビニエンスストアでおやつを購入し、再び車窓の景色を楽しみながら病院へ戻りました。

参加者からは「天気が良く紅葉もきれいだった。」、「公園に向かう途中に見えた、季節はずれのツツジの花もきれいに咲いていて、とても良かった。」などの感想が聞かれました。

今回、普段にも増して参加者の笑顔が見られ、良い気分転換になったようでした。

(第2病棟 溝井 翔太)



第5病棟・家族懇談会

昨年12月に第5病棟の家族懇談会が行われました。この会は患者さんとご家族、スタッフの交流の場として年2回定期的に行われています。

今回、前半ではリハビリテーション室のスタッフによるレクリエーションが行われました。患者さんとご家族が一緒に参加され、笑顔が随所に見られ、とても楽しいひと時となりました。入院中は、患者さんとご家族が一緒に何かを行い楽しめる機会がなかなかありませんので、良い機会になったようです。

後半では、ご家族へ向けて診療部長の阿部医師による講話と精神保健福祉士による福祉サービスの情報提供がありました。講話では、最新のノロウイルス対策についての説明があり、皆さん真剣に聞き入っていました。福祉サービスの情報提供もサービスが日々変化する中で有意義な情報となったのではないかと思います。

これからも家族懇談会が患者さんとご家族にとって充実したものとなるよう、スタッフ一同取り組んでいきたいと思います。

(第5病棟 阿部 祐士)



病棟だより



第一病棟・初詣外出

年が改まり、各病棟の希望者で須賀川市の神社へ初詣へ行ってきました。第1病棟が外出した日は暖冬続きの気温が急に寒くなり、本来の冬らしい寒い日となっていました。病院から車で15分くらいで須賀川市の中で一番大きな神社に着きました。境内に入ると正月三が日の混雑が嘘のようにしんと静まり返った雰囲気でした。大小いくつかの鈴があり、一番大きな鈴を鳴らすとその大きな音が境内中に響き渡りました。お賽銭を入れ思い思いにお参りしたあと、神社内を少し散策しました。その後イオンタウンに行きハンバーガーやドーナツなどで会食しました。普段なかなか食べられないファーストフードを皆さんおいしそうに食べていました。帰院後の反省会では「お参りできて良かった」という意見が多く聞かれました。



(リハビリテーション室 山本 剛三)



新春ゲーム大会

当院の作業療法プログラム「何でもグループ」において、年明けの恒例行事として新春ゲーム大会を行いました。

大会ではジャンケンや古今東西ゲーム、そして昔ながらのお正月の遊びとして福笑いも行いました。特に福笑いでは、ペアを組んでいる参加者の声を頼りに一生懸命に顔のパーツを貼り付けていきました。結果的に面白い顔が出来、参加者の方々から多くの笑いが沸き起こり、まさに「福笑い」といった状態でした。



また、古今東西ゲームにおいてはお題に沿った答えを各グループで相談し考えてもらうことで、他の病棟の方々との交流を深める場となり和んだ雰囲気で行うことができました。実際に参加者からは「他の病棟の方々と交流することができて良かったです。」との感想が聞かれました。

今後も時季に合わせた行事を行い、患者さんに楽しい時間を過ごして頂ければと思います。

(リハビリテーション室 渋谷 真人)



グループホーム・クリスマス会

昨年12月、グループホーム・パインフォレスト、サザーンホーム合同のクリスマス会を行いました。幹事となっている入居者とスタッフで事前に幹事会を開き、内容を考えたり、買い出しや準備を少しずつ進めました。



当日は午前中から準備が始まり、男性は主に会場設営を担当、食堂はあつという間にキラキラのクリスマス仕様に!女性は食事の準備を担当し、ポトフに入れる野菜の調理を行い、男性も協力して野菜たっぷりの特別なスープと大小様々なお稲荷さんができあがりました。12時からの開始に向けて準備は着々と進んでいきました。

美味しいような昼食と綺麗な飾りつけが完成し、幹事の司会進行でクリスマス会はスタートしました。年末最後の運試しじゃんけん大会や、景品色々bingo、女性入居者による電子ピアノの演奏会など盛りだくさんの内容となりました。もちろん、昼食は見た目通りの美味しさでした。

次回はもっともっと楽しいクリスマス会にしましょう。

(パインフォレスト 佐久間 真也)

栄養管理室だより

日本の食文化、行事食について ————— 「端午の節句」



今回で3回目となる日本の食文化、行事食についてのお話です。「端午の節句」は男の子の誕生と成長をお祝いする古くから伝わる行事です。

端午の節句の由来

現代では「こどもの日」としてお祝いする5月5日。この日はもともと五節句の端午の節句にあたります。端午の端は「はじめ」という意味で、「端午(たんご)」は5月最初の午(うま)の日のことでした。それが、午(ご)という文字の音が五に通じることから、奈良時代以降、5月5日が端午の節句として定着してきました。田植えの時期である5月になると、稻の神様に豊穣を祈願するため早乙女と呼ばれる若い娘達が小屋や神社に籠って田植えの前にけがれをはらう「五月忌み」という風習が行われており、端午は元々女性の節句でした。古くから邪気ばらいの力があるとされていた菖蒲とよもぎを軒に挿することで、厄災をはらってけがれを浄化できると考えられていたのです。江戸時代に入り、勢力の中心が貴族から武家に移るとともに、「菖蒲(しょうぶ)」の音が、武を重んじる「尚武(しょうぶ)」と同じであることから、「端午の節句」は、「尚武」の節句として、武家の間で盛んに祝われるようになりました。それから、将軍に男の子が生まれると、玄関前に馬印(うましるし)や幟(のぼり)を立てて祝うようになり、時代と共に男の子の誕生と成長を祝うお祭りへとなっていました。

端午の節句のお祝い飾り

鎧・兜 交通事故や病気から大切な子どもを守ってくれるようにという願いを込めて飾ります。

五月人形 主体となる人形のような人物に成長してほしいという願いが込められています。

鯉のぼり 「黄河の急流に竜門と呼ばれる滝があり、その滝を登ろうと多くの魚が試みたものの登れたのは鯉だけで、登り切った鯉は竜になった」という中国の故事が元となっており(登竜門という言葉の由来)、子どもがどんな環境にも耐え、立派な人になるようにとの立身出世を願う飾りです。



お祝いの仕方

端午の節句のお祝いは、本来五月五日の節句当日ですが、4月中旬までには飾りの準備を終わらせ、前の日の晩(宵節句といいます)に両家の両親やお祝いをいただいた方、普段親しくしている方たちを招きます。ごちそうは、赤飯や黄飯(クチナシの実で染めたおこわ)、鯛の尾頭付き、かつおのたたき、かつおの焼き霜づくり、鯛の兜焼き、伊勢海老の具足煮(鎧兜を見立てたもの)、れんこんや筍の煮物、煮豆、それに初節句(男の子が生まれて初めての節句)には「難を逃れる」意味を持つちまきを、2年目からは新しい芽ができるまで古い葉を落とさない事から「家督が途絶えない」縁起物として「柏餅」を食べます。

(栄養管理室 二瓶 裕子)

ひとくちコラム

東北・関東地方のちまきは、三角形のおこわを笹の葉で巻いた物で、きな粉をつけて食べます。

関西のちまきは、上新粉を練って作る白くて細長い笹団子のことで、ういろうのような、ぷるんとした甘いお菓子です。関西では柏餅よりもこのちまきが主流となっています。

また、その他にも各地方で特徴のあるちまきがいくつあります。もち米粉にうるち米、麹と黒砂糖を入れてこねた「ういろうちまき」や、葛と砂糖で練った「葛ちまき」、それに小豆あんの入った「羊羹ちまき」、クチナシで染めたもち米で作ったちまき、越後の「笹だんご」、木灰で煮る鹿児島の「あくちまき」などがあり、俵型、円錐型、三角形など、形もさまざまです。

各地の

「ちまき」

薬局だより

精神科病院で使われる薬⑪ ~新しい睡眠薬~

vol.16で紹介したラメルテオンに続き、新しい睡眠薬についてお話ししたいと思います。

今回紹介するスポレキサント(ベルソムラ®)は、今までのどの睡眠薬とも作用機序が違う薬で、オレキシン受容体拮抗薬という新しいカテゴリーの不眠症治療薬です。

オレキシンとは脳内の伝達物質の一つであり、『覚醒(目が覚めている)』と『睡眠(眠っている)』に関与していて、オレキシンがオレキシン受容体に結合すると、覚醒が促され、起きている状態を保ち安定させ(覚醒を維持する)ます。スポレキサントはこのオレキシンがオレキシン受容体に結合することを邪魔することにより、脳の覚醒状態を抑制し自然な睡眠へと導きます。入眠効果にくわえ睡眠維持効果が確認されています。

一般的なベンゾジアゼピン系睡眠薬にみられるふらつきや記憶障害の副作用が少なく、高齢者には使用しやすい薬ともいえます。また依存性もまずありません。しかしながら、起きた後も眠気が続く傾眠や頭痛、悪夢をみるといった副作用も報告されていますので、注意も必要です。



(薬局 影山 文恵)

新入職員紹介



12月より第2病棟に勤務しております。病院勤務は約2年ぶりとなりますので、大変緊張しております。また、不慣れにてスタッフの方々に迷惑をかけますがご指導よろしくお願ひいたします。

看護師 海上 和彦



10月中旬より勤務しています。なかなか覚えが悪く皆さんにはご迷惑をかけておりますが、少しでもお役に立ちたいと考えています。今後もご指導の方よろしくお願いいたします。

看護師 鈴木 優翔



平成27年度表彰

看護功労知事感謝状表彰

高田 陽子

須賀川市公衆衛生事業功労者表彰

有馬 京子

第50回福島県精神医療懇話会永年勤続表彰

日本精神科病院協会表彰

橋 隆一

福島県精神科病院協会永年勤続表彰

橋本 弘子 山本 裕佳里

平成27年度永年勤続者表彰

25年勤続 ……門沢 美恵子

20年勤続 ……佐藤 晶子、佐藤 英文、白川 英子、安田 保弘、関根 和歌子

5年勤続 ……佐藤名里子、橋本 千明、早川 智仁

四季冬

Four Seasons

寿泉堂松南病院の



デイケア
行事

特別
プログラム

障害者総合支援法についての講座

地域生活に役立つ情報を得る機会として、特別プログラム「障害者総合支援法についての講座」を行いました。

障害者総合支援法は平成25年4月に施行されましたが、障害者自立支援法から名称変更されて変わった6つのポイントが最初に説明されました。さらに、出席しているデイケアメンバーの皆さんを利用すると思われる福祉サービスが幾つか紹介されました。

質疑応答では「障害福祉サービスと介護保険サービスの適用関係」「就労移行支援と就労継続支援の違い」などの質問が出され、質問者以外の方も質問に対する回答を聞いて理解を深められているようでした。

障害者総合支援法は施行後3年で見直される予定となっており、必要に応じて情報提供できるよう、その動向を注視していきたいと思います。

(デイケア 石塚 誠)

院内
行事

クリスマス会

イリュージョンは迫真的演技

12月17日、第2病棟を会場にクリスマス会が行われました。毎年クリスマス会を楽しみにして下さる患者さんは多く、今回は62名の患者さんが集まってくれました。今泉院長の挨拶の後、サンタクロース役の患者さんが登場すると会場は明るい雰囲気に変わりました。

演習に来ていた看護学生さん達が、少し緊張しながらもクリスマスソングとダンスを披露してくれました。次にスタッフのレクリハ委員によるイリュージョンが行われました。迫真的演技に会場は驚きの声や笑い声に包まれました。おやつにはコンビニエンスストアの大きなプリンパフェが出て「とても美味しかった」と好評でした。

最後のbingoゲームではたくさんの患者さんに景品が当たり、皆さん嬉しそうでした。

「来年はさらに充実したクリスマス会にしよう」と早くも意気込んでいたスタッフなのでした。

(レクリハビリ委員会 佐藤 三夏)



外来診療のご案内

●寿泉堂松南病院

	月 mon	火 tue	水 wed	木 thu	金 fri	土 sat	日 sun
午前	河野創一	大塚健正	橋 隆一	阿部正幸	今泉修一	鈴木志郎	担当医
午後				休 診			休診

当院の外来診察時間は下記の通りです。

- 1.診療時間 午前9時～午後12時30分 午後は休診です。
- 2.受付時間 午前7時～正午まで(新患受付は午前11時30分まで)
- 3.日曜日・祝祭日は原則として休診いたします。

●デイケア

午前	今泉修一	阿部正幸	河野創一	今泉修一	今泉修一		
午後							

●寿泉堂綜合病院 [心療内科・精神科]

	月 mon	火 tue	水 wed	木 thu	金 fri	土 sat	日 sun
午前	今泉修一	阿部正幸	河野創一	鈴木志郎	橋 隆一	担当医(五週) 矢部博興(～四週)	休診
午後			休 診				

外来診察時間は下記の通りです。

- 1.診療時間 午前9時～午前11時30分 午後は休診です。 2.日曜日、祝祭日は休診いたします。

ミニ・コラム アサギマダラ

2014年の9月、当院で見つかりました。「旅をする蝶」として有名で、秋になると南西諸島や台湾まで南下する翅の模様が鮮やかな大型の蝶です。この蝶はきっと旅の途中で当院に寄ったものと思われます。



編集後記

この冬は県内の降雪量が極端に少ない冬になりました。雪かきをする日も少なく過ごしやすい日々でしたが、スキー場の経営はつらい冬になったようです。またこれから先、水不足などの影響が出ないか心配であります。この暖冬の影響でインフルエンザは例年より遅い時期でのピークとなり、まだまだ油断はできません。お互い注意しましょう。

これから春、夏とだんだん暑い日が出てきますが、移りゆく季節を楽しむ余裕が欲しいと思っています。

(広報委員長)

医療法人 為進会 寿泉堂松南病院

理事長 湯浅 大郎

院長 今泉 修一

●診療科目 精神科・心療内科
※精神科デイケア併設
※訪問看護はご相談に応じ、実施しております

●住 所 〒962-0403 福島県須賀川市滑川字池田100番地
●電 話 0248-73-4181(代) ●FAX 0248-72-8133
●ホームページ <http://www.jusendo.or.jp/shn>
●病床数 215床(精神165床、認知症治療病棟50床)

グループホーム「パイン・フォレスト」

●住 所 〒962-0403 福島県須賀川市滑川字池田91番地
●電 話 0248-73-4182 ●FAX 0248-63-1185

グループホーム「ザザーンホーム」

●住 所 〒962-0403 福島県須賀川市滑川字西山78番地

小規模作業所「シヨップしようなん」

●住 所 〒962-0403 福島県須賀川市滑川字池田100番地20
●電 話 0248-72-0201

公益財団法人 湯浅報恩会

●ホームページアドレス <http://www.jusendo.or.jp>

寿泉堂綜合病院	寿泉堂香久山 居宅介護支援事業所
●電話 024-932-6363(代)	●電話 024-932-6501
寿泉堂香久山病院	寿泉堂香久山病院 通所リハビリテーション事業所
●電話 024-932-6368(代)	●電話 024-932-6368
寿泉堂クリニック	いずみ訪問看護ステーション
●電話 024-939-4616(代)	●電話 024-921-5246

社会福祉法人 いずみ福祉会 介護老人福祉施設 スプリングガーデンあさか	認知症高齢者グループホーム グループホームすぷりんぐ
●電話 024-937-3737	●電話 024-937-3881